

単元名

ココロに希望を灯そう！そしてまちに花を咲かせよう (わがまちふるさとじまん)

男子 11名 女子 14名
計 25名

1 単元のデザイン

単元について

- 本単元は、本校が「総合的な学習の時間の全体計画」で定める「目標(2)ふるさと安浦の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付ける。」を指導するために設定されたものである。
- 本校区は、山や海など豊かな自然に囲まれ、特産物や語り継がれている伝統を有するまちである。しかし、平成30年西日本豪雨災害で大きな被害を受け、ココロに不安や辛い記憶を残している。そこで、児童一人一人が防災に関する基礎的・基本的な内容を理解することが、自分の命は自分で守ることに繋がると考える。ふるさと安浦のじまんを知ることでふるさとへの愛着をもつとともに、被災した経験を人々に伝えていくことや、児童同士や児童と地域の方々が協働しながら活動することを通して、本中学校区で育成を目指す資質・能力を育むことができる。

児童の実態

- 本学級の児童は、全員が安浦の豊かな自然が好きだと答えている。地域の特産物にも興味をもっており、マリーゴールドの花も、楽しみながら育てている。平成30年西日本豪雨災害で被災した経験については、「雨が強くなると不安になりますか」と答えた児童が72%であり、当時の様子を話し始めると涙ぐむ児童もいる。
- アンケートでは、「授業では、グループで話し合いをする際に積極的に参加している」と肯定的に答えた児童は、90%である。しかし、「自分の考えとその理由や根拠を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」と答えた児童は52%と最も少なく、課題がみられる。

パフォーマンス課題について

- 単元のゴールとして、被災した家族やまちの人に元気をとりもどしてもらうために、防災発表会でこれまで調べたことや自分の気持ちを語るパフォーマンス課題を設定する。まず、ふるさと安浦の魅力を知るために、地域の方をゲストティーチャーとして招き、呉市や安浦町について触れ、興味関心をもたせる。また、復興のシンボルマークとして被災マリーゴールドを広め、その花びらでハンカチを染め、広報活動に使用する。それと同時に、地域の方から災害の時の状況も聞いたり、風化させないためにも危険な箇所を把握したりしながら、児童同士や地域の方々と関わり、防災について考える活動を通して、主体的・協働的な活動を促す。さらに、家族や町の人々に「安浦の魅力」と「油断禁物」を同時に広めるために、どのように表現すれば伝わるのかを考え抜く活動を通して、子どもたちの被災の記憶を活力へと変換させ、表現力を磨きながら伝え合う中で、思いや考えを共有し合い災害の経験から立ち直るきっかけにもしたい。

思考を深める指導のポイント

- 調べたことを整理する段階では、情報を比較、分類、関連付けしてよりよく深く分析できるようにする。具体的には、グループごとに話し合わせたり(コミュニケーション力)、思考ツールやタブレットを活用し、互いの考えを示しながら交流したりできるようにする。さらに、伝えるというゴールを目指す中で、理由や根拠も述べられるように、表現力を身に付けさせていく。そのために友達や多様な大人と対話的な学びができる場を意図的に取り入れるようにする。(コラボレーション力)

2 単元の目標

安浦町の特産物や名所、防災について調べる活動を通して、そこに関わる人々の思いや願いから町のよさを理解するとともに、地域が抱える課題を発見し、整理分析したりしながら、地域を支える存在に気づき、ふるさとに愛着をもちつつ、地域のためにできることを進んで考えることができるようにする。

3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の特産物や伝統、学校に保管してある防災グッズや地域で活動されている方々の思いを理解している。 ②インタビューや調査を目的や場面に応じて実施している。 ③自分たちの住む町のよさや特徴を理解することは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①安浦町のよさや防災を探る課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。 ②安浦町のよさや防災について収集した多様な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③集めた情報の中から地域や家族に必要なとされる内容を選び、情報が伝わるように、表現している。(コミュニケーション力)	①体験を通して得た知識や自分とちがう友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。(コラボレーション力) ②自分と地域の人々等との関わりの中で自分にできそうなことを見付けようとしている。 ③自分を支えてきた存在に気づき、感謝の気持ちをもとうとしている。

4 単元計画（全54時間）

次		学習内容	評価規準（評価方法）			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
一	1 ～ 3	課題の設定	「安浦町の様子について振り返ろう」 ・現在の安浦の町がどのような町なのか，関心をもつ。 ・安浦を襲った西日本豪雨災害について振り返る。			
	4 ～ 7		・「安浦ちいとプロジェクト」の活動の話を聞く。 ・安浦がどのような町になってほしいのか，学習課題を立てるとともに，パフォーマンス課題を設定する。		◎思①（ワークシート，発言分析）	
二	8 ・ 9	情報の収集 整理・分析 振り返り	「安浦のいいねを見つけよう！被災マリーゴールドを育てよう」 ・安浦にはどんな自慢があるのか考える。			○態①（発言内容）
	10 ～ 15		・専門家から安浦の牡蠣，イチジク，たんとう節について話を聞く。 ・安浦のいいねについて振り返る。	◎知①（ワークシート，発言内容）		◎態②（ワークシート，行動観察）
	16 ～ 19	情報の収集 整理・分析 振り返り	・ひろしま・マイタイムラインについて家族会議を行う。 ・学校防災グッズを調べる。	○知②（ワークシート）		
	20 ～ 25		・調べたことの中から学習発表会で最も伝えたいことは何かを考える。 <u>比較する</u>		◎思②（発言内容，ワークシート）	
三	26 ・ 27	課題の設定	「ココロに希望を灯そう！まちに花を広げよう」 ・聞いたこと，調べたこと，見たことについてどのようにまとめていくのか学習課題を立てる。		○思①（ワークシート，発言分析）	

28 ～ 30	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・たんとう節で歌われている場所を訪ねる。 ・町歩きをしながら水が溢れた地域についても確認する。(タブレットで記録する。) 	◎知② (ワークシート)		
31		<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生から西日本豪雨災害の際の話を、詳しく聞く。 			○態① (課題カード, 発言内容)
32 ・ 33		<ul style="list-style-type: none"> ・被災した経験をまとめたり, 家族や友達にインタビューしたりする。 	◎知② (ワークシート)		
34 ～ 39	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・たんとう節で歌われた美しい場所と災害時の写真を比べながら整理し, 安全マップを作成する。 		◎思② (発言内容, ワークシート)	○態① (発言内容)
40 (本時) ・ 41		<ul style="list-style-type: none"> ・家族のインタビューをもとに, 被災した家族を元気にしていく方法を考える。 		◎思② (発言内容, ワークシート)	◎態① (発言内容)
42 ～ 47		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な事柄や伝えたい内容を整理して構成を考える。 		○思② (発言内容, ワークシート)	
48	まとめ・創造・表現 実行	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習発表会」で, 学んだことについて発表する。 		◎思③ (発言内容, 行動観察)	
49 ・ 50		<ul style="list-style-type: none"> ・被災マリーゴールドをハンカチに染め, 広報活動に使用する。 			○態② (発言内容, 行動観察)
51 ・ 52		<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題に取り組む。 ・「防災発表会」で, 学んだことに自分の被災体験を重ねて, 前向きな言葉で発表する。 		◎思③ (パフォーマンス課題)	◎態③ (ワークシート, 発言内容)
53 ・ 54	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り, それぞれが今感じている安浦のじまんや地域の防災について語り合い, 自分の命は自分で守ることについて確認する。 ・マリーゴールドの種を次の3年生に引き継ぐ。 	◎知③ (発言内容, 作文カード)		◎態③ (ワークシート, 発言内容)

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「○」を, その中で特に学級全員の児童の学習状況について総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「◎」を付けている。

5 本時の学習（本時40／54）

（1）本時の目標

防災発表会で発表する内容について、保護者アンケートの結果と自分の考えを比較したり関連付けたりしながら考えることができる。 【思考・判断・表現】

（2）学習の流れ

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 本時の学習が、パフォーマンス課題とどう繋がっているかを知る。</p> <p>2 豪雨災害から3年たった今、「雨が降ると怖くなる時がある。」と答えた保護者と児童の割合を提示する。 比較する</p> <p>3 めあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題とのつながりを確認する。 保護者アンケートと同様に、「雨が降ると怖くなる時がある。」と応えた児童の割合を提示し、今抱えている気持ちを確認する。 これまでの学習を振り返り、本時のめあてに繋げるようにする。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 家族のみんなを元気付ける方法を、アンケート結果をもとに練り直そう。 </div>		
	<div style="background-color: #cccccc; padding: 2px;"> 学び合い①自分の考えをもつ </div>	<div style="background-color: #cccccc; padding: 2px;"> 学び合い②比較、関連付けながら思考する </div>	
考える	<p>4 家族が防災発表会で3年生に期待していることのアンケート結果を提示し、自分たちの考えていた発表内容と比較する。 比較する 関連付ける</p> <p>○保護者アンケートの結果と自分たちの考えを比べながら、家族を元気付けるために3年1組のみんなができることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくが思っていた結果とちがうな。理由が分かったから、発表方法を変えたいな。 わたしは、クイズがいいかなと思っていただけ、アンケート結果ではスピーチを希望している人が多いから、考え直してみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットやテレビを活用し、資料を大きく提示したり、問題点を共有したりする中で課題意識をもつ。 保護者アンケートを整理する中で、グループで話し合いながら、自分たちができそうなことを考えていく。考えを整理するためにピラミッドチャートを活用する。 家族の意見に寄り添いながらできそうなことを選んでいくようにする。選んだ理由にも着目させるようにする。 	<p>保護者アンケートの結果を整理したり、自分の考えと比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えることができる。</p> <p>【思・判・表】 (ノート、発言)</p>

	学び合い③考えを広げたり深めたりする	
深める	<p>5 全体で交流し、意見をまとめる。</p> <p>比較する 関連付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの共通点を比べながら交流するようにさせる。 アンケート結果のどの部分を参考にして選んだのかを理由として挙げながら発表させる。
振り返る	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>……の方法で伝えれば、家族のみんなを元気付けることができるだろう。</p> </div>	
	<p>7 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、パフォーマンス課題と関連付けて、振り返りに書かせる。

6 板書計画

ココロに希望を灯そう！
そしてまちに花を咲かせよう

㊦ 家族のみんなを元気付ける方法を、アンケート結果をもとに練り直そう。

<p>3年1組のアンケートの結果</p>	<p>ピラミッドチャート</p> <div style="text-align: center;"> </div>
<p>比較する 関連付ける</p>	
<p>保護者アンケートの結果</p>	<p>㊧ ……の方法で伝えれば、家族のみんなを元気付けることができるだろう。</p>

